

2011 年 CAVOK ヨーロッパ航海 (Lisbon ~ Corsica)

5月27日(金) Mazagon Mazagon

未明の夜中、雨になる。前線のはしっこが通過したようだ。朝起きると快晴になっていた。スペインに入ると、2時から4時まではどこも休みになるので、休みの時間に当たらないように一日の計画を考える。

マザゴンの町は、小さな町だが海岸沿いの丘の上には豪邸が並んでいる。



1993年にオープンしたマリーナでまだ拡張工事をしていた。近くのHuelva(ウエルバ)という町にコロンブスが新大陸を発見した時のサンタ・マリア号と随伴艇の実物大のレプリカがあり、当時の航海の様子がうかがわれ、興味深かった。コロンブスの最初の航海の出港地はこの近くのPalosだそうだ。曳釣りをするとうまく釣れるので、大型魚用のクーラーボックスを購入する。

夕飯は、野菜、鶏肉と色々なものが入ったカレーライスを9時半頃からコックピットで食べたが、外はまだ明るかった。



5月28日(土) 晴れ/曇り Mazagon ~ Rota 0850/1640 南5 ~ 10m 43NM

今日は、カデイスが計画の目的地であったが、先のフランス人の奨めもあり、カデイスの向い側のロタに目的地を変更した。

8時50分にマザゴンを出港したが日没が21時、そしてマリーナオフィスも21時までオープンとのことで時間を気にせず航程が楽である。マザゴンからはイベリア半島を南に上がるがあいにくと風は南風のヘッドウインド、仕方なく機走で真上の目的地に進む。昼過ぎから風が10m位に上がり波にたたかれるのでコースをずらしメインセイルを2ポンリーフで揚げ、機帆走でスピードをつける。幸いに風が若干西に回り、機帆走で7KTで走れた。

ロタもレセプションポンツーンがあり、そこに舫い、オフィスで手続をして所定の場所に舫った。風が強かったが、近くのセーラーが舫いをとってくれ、助かる。同じルートを辿る仲間が多く、ここでも英国艇と再会する。

今日は、潮を大分かぶったので船を水洗いしてからシャワーを浴びる。

ロタは、カデイスの対岸の町でこじんまりとしたムアー人からの歴史のある町だ。

夕食は、今日も釣れたカツオもどきの魚を刺身で食べる。少し身が柔らかいが刺身が食べれるのは嬉しい。

先日帰国した柴崎さんの奥さん純子さんの差入れに佃煮と美味しく頂く。純子さん有難うございます。

フェニキア、ローマ時代の住居の遺跡も残っており大変興味深かった。



カテドラルの塔からは、アズールカラーの海と長い海岸線と白い建物のコントラストが目についた。

カデイスのマリーナは、貨物船港の端で殺風景の処にあり、フランス人の彼がカデイスでなくロタを勤めたのが納得できた。現在も貿易港として栄えているが旧市街地は見事であった。流石に無敵艦隊の記念物等は探せなかった。

夜は新婚旅行に日本に来たことがあるというスペイン人夫妻が奨めてくれたマリーナ近くのこじんまりとしたお洒落なプチホテルのレストランで食事をする。前菜にムール貝とタコのバルサミコ和えとツナのエスカベッシュ、プロウンカクテル、それからカジキマグロのステーキをドライの白ワインで頂く。お奨めどおりの味で店の雰囲気含めて大満足。

5月30日(月)雨/曇/晴 Rota~Barbate 0920/1645 南西4~6m 37NM

予定ではもう一泊だったが、昨日カデイスも観光できたのとジブラルタル海峡通過時の天気の関係で一日早く出航する事とした。風はあまりない予報だったが、南西の適度な風が吹いてくれて気持ちのよいセーリングができた。

バルバテは小さな町で昔からマグロ漁の盛んなところでマリーナの入口付近に幅広く網が伸びていた。

街のスーパーに行ったら、日本人風の人がいたので声を掛けたところ、韓国人で、漁船で来ているとのことだった。

大きな倉庫が沢山並んでいたが、ここで水揚げされたマグロは、殆ど日本に行くものだと思われた。

マグロ屋さんあったので、マグロの燻製を買って夕暮時のジントニックのおつまみにしたが、いまひとつであった。夜は、スーパーで買ったステーキを食べたがマグロの燻製と同じでいまひとつであった。

5月31日(火)晴時々曇 西南西4~8m Barbate~Gibraltar 0820/1600 36NM

バルバテ2泊予定を1泊にしてジブラルタルに向け出港。バルバテはジブラルタル海峡を渡る時の避難港的なところもあり、朝から3隻ほどジブラルタル方向に向け出港していった。満潮が14時で上げ潮時は2KT弱の逆潮になるが、岸寄りにマグロ用の網に気をつけながら行く。風はアビームで7KTを昼過ぎまでキープする。13:25に右前方にアフリカ大陸が見えた。途中、トラフォルガル沖を通過したが、ネルソン提督と無敵艦隊との海戦シーンが目に浮かぶ。半島の南西端のTarifaの町がきれに見え、それを越えてからはコースが東になり観音開きの真ランで走る。

途中10数杯のヨットと行交う。ここからはアフリカとの距離は10数kmでアフリカ大陸を見ながらの帆走となる。

風が弱くなったが、今度は追い潮になりのおんびりセーリングを楽しむ。良いお天気で海峡を越えることができラッキーだった。そのうちジブラルタルのロックが見えてきた。ジブラルタル湾は沢山の本船が停泊していて、その中をマリーナ迄機走にする。今まで全てポンツーンに横づけであったが、ここからは地中海スタイルの檣着けとなる。

初めての着け方なので心配していたが、マリーナのスタッフのアドバイスで無事舫った。地中海に入ると干満の差が少なくなるので、浮棧橋でなく固定の棧橋となる。パウ着けにしたが乗降りが不自由なのでスターン着けに入替えて乗降用の梯子をつける。

藤巻さんの今回の一つの目標でもあったジブラルタル海峡を通過でき、ホッとする。

予報では2日以降東の風が強く吹くとのことだったので、一安心である。取敢えずここで4泊の予定とした。

地中海の出入口のせいか、各国の船が係留してあり賑やかである。

外部電源が一時入ったが、その後入らなくなってしまい色々調べたが原因が分からず業者に修理を依頼するが、明朝来るとのこと冷蔵庫に氷を買ってきて入れ、電源を確保する。

入港に際して表敬用の旗をスペインのままで忘れていたら、マリーナのスタッフに注意され慌てて英国の旗を揚げる。

6月1日(水)晴 Gibraltar

朝、いつもの休みの日の通り、8時過ぎにデッキで朝食を食べ、修理の業者が来るのを待つ。電気のメカが来て、すぐ直す。なにかの拍子に一時的に大電流が流れ、サーキットが飛んだせいだった。ここも昨日確認したのだが、OFFからONにして再度OFFにしてしまったのがいけなかった。また右の航海灯が舳いロープが絡まり、壊れたのでその修理もお願いして直した。ここジブラルタルは修理、部品の数含めてヨットの修理にはなんでもできる感じである。

こまごました仕事と洗濯をして午後を過ごす。夕方といっても明るく、8時から船のデッキで先日のマグロの燻製とレバーペーストで一杯やりながら過ごして、9時過ぎに今回初めて中華レストランで軽く蕎麦を食べる。

マザゴンで逢ったフランス人の船が入港してきたが、風と波で大分たたかれたといていた。1日違いでこんなに海は違うものだ。明日、一緒にタクシーをチャーターしてロック見学をしようとして誘ってくれたので、一緒に行くことにした。

食事の後、カジノがあったのでお遊びで1人10lbsだけやったが儲けることはできなかった。

6月2日(木) 晴れ Gibraltar

朝10時フランス人のフランソワーズさんとその友人と我々3人とで、ロックツアータクシーをチャーターしてロック見学に行く。ジブラルタルもフェニキア人からの歴足があり、地中海と大西洋と結ぶ要衝であり17世紀から第二次世界大戦まで軍事的にも重要地点だった。その歴史を石灰岩でできたそびえ立つロックに掘られた要塞で見ることができた。

頂上からジブラルタル湾、ジブラルタル海峡、地中海そして最短距離で14kmしか離れていないアフリカ大陸がよく見え、絶景であった。風は強く海面には白波が立ち、我々が予定より2日早めに入ったのが正解であった。

ジブラルタルは英国領土で、貨幣はユーロも使えるがポンド。そして関税がないので、メインストリートには免税店が沢山ある。ジブラルタル半島の付け根に滑走路があり、滑走路の中央が道路で、飛行機の離発着時は通行用のゲートが閉まる。滑走路を越えるとスペインになる。

CAVOK を係留してある Marina Bay は、イギリスを中心とした各国のセーリング・ヨットと超大型クルーザーが狭い中沢山係留してあり、見るだけでも楽しむことができる。マリナーの周りも色々お洒落なレストラン、ショップが並んでいる。

夜は、フランソワーズさんとその友人を船に招待する。ズッキーニの詰め物にカレーであったがご飯が美味しいといってご飯をお代りして食べてくれた。

彼は、赤ワインを3本と自宅で獲れたというレモンを持ってきてくれたが、ジンとウイスキーのソーダ割の後、頂いたワインも全て頂いた。

その後、彼の船に招待されて行く。1972年製のニコルソンで、見事に整備され船内も味のある雰囲気醸し出されてる。昔からの船を大事に磨いて新艇にない味を楽しんでいるようだ。羨ましい限りである。なんと38年間、この船に乗っているそうだ。ゴッドファザーのヨット版という風格が滲み出ているキャプテンだった。船でラム酒をご馳走になり、失礼かと思ったがお年を聞いたら81歳とのこと歳を感じさせない若さには敬服した。できれば私も見習いたいものだ。

6月3日(金) 晴れ Gibraltar

今日は、モロッコ日帰りツアーに行く。昨日藤巻さんが自転車で隣のスペイン返行ってツアーの予約をしてきてくれた。

スペインの国境まで滑走路を横切り歩いて行き、スペインに入ってからタクシーでフェリー乗場のあるアルヘシラスに9時の集合に間に合うように行った。ここでドイツ人とアメリカ人の若者2人と合流して5人でツアーがスタートした。スペイン領セウタ迄1時間半弱で着き、ここでフランス人夫婦(ヨットでセウタに来ていた)と合流して、案内人と一緒にマイクロバスに乗り、最初 Tetoan (テトウアン)に行く。ここも世界遺産で迷路のあるメディナ(旧市街)を歩く。小さな露店や店があり、現代から一時代昔に戻ったようだ。その後 Tanger (タンジール)に行きメディナの香料店でサフランを買い、アラブ風レストランでモロッコ風スープ、シシカバブとクスクスをアラブ音楽の演奏を聴きながら頂く。シシカバブとパンが美味しかった。帰路、セウタの港まで1時間半ほどのドライブを大西洋海岸沿いに走るが、緑も多く山もあり山麓の白い壁の家々、また海岸沿いの別荘地、大西洋と中々の眺めであった。メディナ地区との差があまりにもあり過ぎるような感じた。途中ラクダも乗ったが、アラブの異文化に接して興味を覚えた。夕方8時半のセウタ発フェリーに乗り、ジブラルタルに戻り遅い晩御飯を近くのレストランで取り、就寝する。

(続く)